

気づいていますか？

13,000 人分の **17** の気持ち

～障がい学生の「ニーズ」って何だろう？～

第 1 回

全学FD／SD研修会 開催報告

～障がい学生支援を考える～

約 13,000 人が通う京都産業大学に、障害のある学生がどれだけ在籍しているかを知っていますか。

そして、どんな大学生活を送り、どんなことに困っているのか知っていますか。

今日から私たちができること。

それはまず、知ること。

その一歩から、快適なキャンパスライフがはじまります。

日 時:平成 24 年 5 月 30 日(水)

13:00～16:00

場 所:神山ホール第1・2セミナー室

内 容:◆第1部 講演

～発達障害のある大学生支援について～

◆第2部 パネルディスカッション

～障がい学生を組織的に支える～

参加者:113名(教員:62名、職員:46名、学生:5名)

共 催:教育支援研究開発センター

ボランティア活動室

総務部

17

※表題の「17」という数字は、ボランティア活動室で把握している障がい学生数であり、潜在的に、もっと多くの数の学生が在籍をしていると思われます。

(参考)平成 23 年度の日本学生支援機構の調査によると、高等教育機関に通う障がい学生は 10,236 人とされていますが、高等教育機関が把握している人数のみ計上されているので、潜在的な学生も含めると、もっと多くの障がい学生が高等教育機関に在籍していることが想定されます。

《研修会概要》

1部：講演

～発達障害のある大学生への支援について～

信州大学高橋教授は、冒頭、発達障害の事例として3つのケースをあげ、学習における困難さの違い（特徴）を紹介した。その後、障がい学生の特徴に応じた具体的な支援方法を、講義、入試等の場面別に、教職員向けに解説した。例えば、ノートを取るのに時間がかかり、授業スピードについていくことが困難なAさんを例として、彼女に適切な支援は、単位取得のために成績評価を甘くする事ではなく、学ぶ環境を整えるために授業スピードを緩めて理解させようとする支援であるという考えを示された。教職員は学生に対して過保護になりすぎず、その学生の特徴に相応しい不可欠な支援を行うことが重要であるとまとめられた。

講演を聴いた参加者からは、事例を交えた説明が分かりやすく、具体的な学習支援方法が理解出来たという声が多く寄せられた。

しかし不安や疑問点も残るとの意見も職員から出た。その1つに、学生から自己申告がない限り、学生本人が障害を持っていて授業についていけないのか、もしくは単なる甘えで単位が取れていないのか、教職員が判断することは難しいとの意見である。この講演会に参加していない教職員のためにも、発達障害の症状例と具体的な支援策をリーフレットにして提供してほしいと、教員から具体的な要望も出た。



パソコンテイクを行う学生たち

高橋知音先生による基調講演



2部：パネルディスカッション

～障がい学生を組織的に支える～

今回のパネルディスカッションの形式は学内初の取り組みである。劇場型で、登壇者の顔をお互いが見ることが出来るように会場がセッティングされた。登壇者の一人には、聴覚障害を持つ学生（北野さん）に登場してもらい、生の声を届けてもらった。

彼女が授業で困ることの1つに挙げたことは、板書された黒板とパソコンテイクの画面を同時に見ないといけないので、授業スピードについていけなくなるという点だった。教員に対しては、もう少し話すスピードを緩めて頂けると理解しやすいと、要望を述べた。一般学生に対しては、まずは、大学の中にどのような障害を持つ学生がいるのか興味を持ってほしいと想いを語った。

彼女は、本学の総合的な支援体制の評価は何点かと聞かれ、80点と答え、大学側が各種テイク（パソコンテイク・ノートテイクなど）を募集し支援してくれていることに対して、感謝の気持ちを述べた。

この講演会を通して、100名を超える教職員が障害に対する知識を得ることが出来た。講演後にはさっそくボランティア活動室に相談のために教員が訪れ、障がい学生だと思われる子がクラスにいるので、授業を見に来てほしいとの要望が出た。まずは情報共有から始めるためにも、ボランティア活動室に相談するなどのアクションから始めてほしい。



劇場型パネルディスカッション

研修会の詳細は、下記URLからもご覧いただけます。

URL : <http://www.kyoto-su.ac.jp/outline/approach/excellence/>

Q&A

ここでは、パネルディスカッションで時間の都合上お答えすることが出来なかつたご質問の中から、特に多く寄せられたご質問について掲載しています。今後の学生支援にお役立ていただければ幸いです。このページでご紹介できなかったご質問については、後日HPにて掲載する予定をしています。

【教授方法・授業運営について】

Q:法学部だと「英語のコミュニケーション科目」を履修しなければならないと思いますが、聴覚障がいのある学生は、コミュニケーション科目をどのように受講していますか？また、受ける上で困っている点がありますか？

A:英語などの語学の授業はノートサポートテイクを受けています。隣にサポーターさんがついてくれ、英会話を英語で書いてくれます。困っていることではないけれど、不便なところは、グループワークなどで話をするとき、私は読唇できるのですが、やはり英語は難しいです。テイクさんがテイクをしてくれるのですが、テイクさんも全員の英語や普通の会話でもテイクをしなければならず、他の人たちよりも行動が遅くなってしまうのが特徴です。ですがそれは仕方のないことであり、それを周りの人たちが理解しようという気持ちが大切なのです。 【回答:北野美樹さん(法学部2年次・聴覚障がい)】

【成績評価について】

Q:申請のない学生は発達障害の疑いがあってもそのまま評価して良いのですか？

A:本人の申し出がなければ、特別な配慮は行えないと思います。配慮がないために単位が取れないという経験は、現状をなんとかしなければならぬという「気づき」のきっかけになると思います。ただし、単位を落とすことを繰り返しながら支援も求めないと、大学に来ること自体が難しくなるケースもあると思います。そのような場合は、身近な教職員から、「相談しに来ないか」と声をかけることはあってもよいと思います。 【回答:高橋知音先生(信州大学教育学部教授)】

【窓口対応について】

Q:窓口での発達障がい学生の対応方法はどのようにすればいいですか？

A:窓口対応をしていると、「あの学生は発達障害ではないか？」と思われる方も多くいらっしゃるかと思います。その学生に発達障害があってもなくても、まずは本人のニーズや言い分を聞くことは前提です。具体的な対応方法は下記の通りです。

- ・ あいまいな表現の理解が難しいためそのような表現を避ける
(例)「またあとで来てね」→「5分後に来てね」: 比喻や冗談を理解するのが難しい
- ・ 指導的な話し方ではなく、対話形式の話し方をこころがける(なかなか、話し出せない学生もいるが、学生が自分の言葉で話せるまで、話を遮る、話を止めるようなことをしない)

コミュニケーションが取りにくい、信頼関係が築きにくい学生もいるかと思いますが、時間をかけて話をするのがまず必要になると思います。障害の特性上、自分の思いや考えを、上手く伝えることができない学生もいます。そういった学生のために、カウンターではなく、座ってゆっくり話すことができる場を用意し、時間をかけて、本人のニーズや話を聞きとることが重要です。 【回答:井上友裕さん(ボランティア活動事務室職員)】

【その他】

Q:障害のある学生への配慮が、障害のない学生への不利益となりうる状況ではどうすれば良いですか？

A:一般的には、障害の有無にかかわらず、多くの学生にとってプラスとなる配慮の仕方、支援方法をみつけるよう、支援スタッフ、教員、学生がアイデアを出し合うことが必要かと思います。その学生にとって、助けになるのは明らかだが、確実に他の学生にとっては明らかにマイナスの影響がある、教員にとって過度な負担となる、といった場合は、「合理的な」配慮とは言えなくなります。 【回答:高橋知音先生(信州大学教育学部教授)】

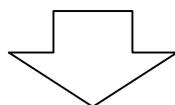
Q：本学の支援体制への満足度は100点満点中何点ですか？

A：支援体制への満足度は80点です。

- ・良い点は、ボランティア活動室がいろいろなテイカーを募集して授業をサポートしてくれる点です。ほかにも他部署の職員さんたちが、例えば健康診断などの時なども私たちに説明文を渡してくれたり、テストの開始・終了時は、紙に文章を書いたり渡してくれたりして、英語の時は別室受験など色々な対策をしてくださります。その点は本当に感謝しています。
 - ・改善してほしいことは、まず大学の中にどんな障害をもつ学生がいるかを把握することが必要ではないかと思います。特に学生はほとんどどんな障害者がいるかを知りませんので授業の時にテイクをしているのを見て、「どうしてパソコンを使っているの？」など疑問に思っている人が多いと思います。ですから、こういう障害者が大学にもいるということを知ってもらい、協力してもらうことが必要だと思います。
- 【回答：北野美樹さん（法学部2年次・聴覚障がい）】

障害って何？

障がい学生の対応ってどうすればいいんだろう…。
どうやって授業を進めたらいいの？



そんな時はボランティア活動室へ！！！！

ボランティア活動室では、障害のある学生の講義や大学生活のサポート、または、障がい学生支援に関する教職員の相談・連携を行っております。日本学生支援機構の調査（平成23年度）によると、いまや、全国の高等教育機関に1万人以上の障がい学生が在籍しており、年々増加しています。障害のことや障がい学生の対応について、お困りごとのある方は、ボランティア活動室までご連絡をいただきますよう、お願い致します。一緒に障がい学生の支援について考えていきましょう！！

○●お問い合わせ●○

ボランティア活動室（3号館1階）

TEL：075-705-1981（内線：2650）／Mail：shogai-support@star.kyoto-su.ac.jp

内容に関するご意見・ご要望・お問合せは下記までお寄せください。

発行物：『第1回全学FD/S D研修会 開催報告～障がい学生を組織的に支える～』

発行日：平成24年7月

発行者：京都産業大学教育支援研究開発センター（本館3階）・ボランティア活動室

TEL：075-705-1729（内線：6103）／Mail：kyoiku-shien-center@star.kyoto-su.ac.jp